

令和5年度（2023年度）

帯広圏総合都市交通体系調査

第2回 協議会

帯広圏交通マスタープランの方向性について

令和6年3月19日（火曜日） 14:00～

▼都市全般の課題

将来人口の減少・少子高齢化の進行
2024年問題に起因する人手不足

自動車依存定着（公共交通利用低）
環境問題・気候変動に関わる社会要請への対応

帯広都心部の空洞化・賑わいの低下（商業機能の郊外化）
DX・GXの推進

▼道路交通課題の検証結果（既存資料・現況解析の総括）

- 帯広圏住民の日常の動きは人口の多い帯広市内での移動が多く、特に、西地区や西帯広地区に関連する移動が目立つ。加えて、音更・幕別・芽室町と帯広市西地区・中心部間の移動が多い。これらの交通需要の多い地区間移動の円滑化・効率化に関する検討が必要
- 前回都市交通MPで位置づけられる**骨格道路網の未整備区間の整備方針**について、地域・社会情勢の変化（人口減少下の交通需要の低下等）を見据えた検討が必要
- 道路整備は進捗しているものの、**朝・夕方の交通渋滞は依然として残っており**、交通量の分散や交差点改良などによる対策と公共交通による支援など、**ソフト・ハードの対策**が必要
- 道路網の整備や施設立地の変化等に伴い**新たな課題箇所**が生じるなど、**改善策の検討**が必要
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、在宅勤務やオンライン会議など効率的な動きも生じているが、**移動頻度への影響は大きくない**
- 2024年問題を契機とした労働時間規制に伴う、物流関連交通の発生集中時間帯の変化が想定され、朝・夕方のピーク時間帯の交通混雑が懸念され、共同集出荷・無人宅配BOXの普及などの**物流システムの再構築**が必要
- 自転車流動を分析した結果、帯広市を中心とした3町間の移動に加え、帯広市内でも地区間の移動が見受けられることや自転車利用時の危険の指摘も見られることから、**自転車走行環境の創出**が必要
- 歩行者は自動車移動に次いで多い移動手段であり、障がい者のみならず、今後の高齢社会や子育て世代の生活しやすい環境づくりとして**歩行空間のバリアフリー化の推進**が求められる
- 帯広圏は広範囲にわたり河川氾濫による浸水の被害や十勝平野断層帯主部を震源とする地震が想定され、平成28年の台風被害では幹線道路の寸断が生じるなどしており、**災害を踏まえた交通体系のあり方**検討が必要
- サイクリストを支援するための、**自転車走行環境の整備・推進**（走行環境、路面の凹凸やクランクへの対応）や**維持管理対策**の強化

▼公共交通課題の検証結果（既存資料・現況解析の総括）

- 新型コロナウイルスの影響によるバス利用者の減少は、コロナ禍以前の水準に戻りきっていない状況であり、この**実態に合わせた公共交通体系の再構築**が必要
- 地域ごとや地域連携の取組みにより、公共交通の空白地域は解消されてきている一方で、利用者の低迷や担い手不足が進行しており、**持続可能な移動支援に向けた対策**が必要
- 2024年問題を契機とした労働時間規制に伴うバスサービスの維持が難しく、異業種・移住促進など**多様な担い手の可能性の模索や労働環境の改善、貨客混載等の取組**検討が必要
- 公共交通間の決済方法の統一化の推進に加え、鉄道とバスの共通フリーパスによる運賃体系の構築など、関係事業者の連携による**シームレスな移動支援**が必要
- バス運行便数の需要と供給のミスマッチ（オフピーク時のバス便数）が生じており、ニーズや移動実態に合わせたダイヤ改正と勤務体制に合わせた**効率のよい輸送体系**の構築
- 高齢者による運転意向の高さに対応した**免許返納制度の構築や公共交通に係る情報の充実**
- 渋滞解消に資する公共交通による工業団地等の通勤支援**（バス専用道路の検討、歩行者・自転車道との連動）

帯広圏 都市交通マスタープランの方向性イメージ

◆住民の日常生活における移動実態を踏まえた、帯広圏の都市構造を支える道路・公共交通網の形成

◆需要と供給を踏まえた公共交通の最適化（路線再編・交通結節点の整備・運転手不足への対応・利便性の高い移動手段の確保）

▼都市全般の課題

将来人口の減少・少子高齢化の進行

自動車依存定着（公共交通利用低）

帯広都心部の空洞化・賑わいの低下（商業機能の郊外化）

2024年問題に起因する人手不足

環境問題・気候変動に関わる社会要請への対応

DX・GXの推進

▼道路交通課題の検証結果（既存資料・現況解析の総括）

帯広圏住民の日常の動きは人口の多い帯広市内での移動が多く、特に、西地区や西帯広地区に関連する移動が目立つ。加えて、音更・幕別・芽室町と帯広市西地区・中心部間の移動が多い。これらの交通需要の多い地区間移動の円滑化・効率化に関する検討が必要

前回都市交通MPで位置づけられる**骨格道路網の未整備区間の整備方針**について、地域・社会情勢の変化（人口減少下の交通需要の低下等）を見据えた検討が必要

道路整備は進捗しているものの、**朝・夕方の交通渋滞は依然として残っており**、交通量の分散や交差点改良などによる対策と公共交通による支援など、**ソフト・ハードの対策**が必要

道路網の整備や施設立地の変化等に伴い**新たな課題箇所**が生じるなど、**改善策の検討**が必要

新型コロナウイルス感染症の影響により、在宅勤務やオンライン会議など効率的な動きも生じているが、**移動頻度への影響は大きくない**

2024年問題を契機とした労働時間規制に伴う、物流関連交通の発生集中時間帯の変化が想定され、朝・夕方のピーク時間帯の交通混雑が懸念され、共同集出荷・無人宅配BOXの普及などの**物流システムの再構築**が必要

自転車流動を分析した結果、帯広市を中心とした3町間の移動に加え、帯広市内でも地区間の移動が見受けられることや自転車利用時の危険の指摘も見られることから、**自転車走行環境の創出**が必要

歩行者は自動車移動に次いで多い移動手段であり、障がい者のみならず、今後の高齢社会や子育て世代の生活しやすい環境づくりとして**歩行空間のバリアフリー化の推進**が求められる

帯広圏は広範囲にわたり河川氾濫による浸水の被害や十勝平野断層帯主部を震源とする地震が想定され、平成28年の台風被害では幹線道路の寸断が生じるなどとしており、**災害を踏まえた交通体系のあり方**検討が必要

サイクリストを支援するための、**自転車走行環境の整備・推進**（走行環境、路面の凹凸やクラックへの対応）や**維持管理対策**の強化

交通MP策定に向けて検討が必要と考えられる取り組み案（道路交通）

4放射1環状の未整備区間の整備検討

主要幹線道路やそれら交差点部における交通混雑への対応

歩行空間のバリアフリー化の検討

帯広圏一体となった自転車ネットワークの検討

自動車運転免許更新時等での自転車配慮への意識醸成（シェア・ザ・ロードの意識醸成）

河川氾濫等を想定した代替路の整備検討

物流交通を支援する道路ネットワークの整備検討

交通結節点や道の駅を活用した輸送拠点化の検討

※令和4年度パーソントリップ調査データに基づく解析の深度化
 ※将来交通量推計などを通じた取り組み案の効果検証

▼都市全般の課題

将来人口の減少・少子高齢化の進行
2024年問題に起因する人手不足

自動車依存定着（公共交通利用低）
環境問題・気候変動に関わる社会要請への対応

帯広都心部の空洞化・賑わいの低下（商業機能の郊外化）
DX・GXの推進

▼公共交通課題の検証結果（既存資料・現況解析の総括）

- 新型コロナウイルスの影響によるバス利用者の減少は、コロナ禍以前の水準に戻りきっていない状況であり、この**実態に合わせた公共交通体系の再構築**が必要
- 地域ごとや地域連携の取組みにより、公共交通の空白地域は解消されてきている一方で、利用者の低迷や担い手不足が進行しており、**持続可能な移動支援に向けた対策**が必要
- 2024年問題を契機とした労働時間規制に伴うバスサービスの維持が難しく、異業種・移住促進など**多様な担い手の可能性の模索や労務環境の改善、貨客混載等の取組検討**が必要
- 公共交通間の決済方法の統一化の推進に加え、鉄道とバスの共通フリーパスによる運賃体系の構築など、関係事業者の連携による**シームレスな移動支援**が必要
- バス運行便数の需要と供給のミスマッチ（オフピーク時のバス便数）が生じており、ニーズや移動実態に合わせたダイヤ改正と勤務体制に合わせた**効率のよい輸送体系**の構築
- 高齢者による運転意向の高さに対応した**免許返納制度の構築や公共交通に係る情報の充実**
- 渋滞解消に資する公共交通による工業団地等の通勤支援**（バス専用道路の検討、歩行者・自転車道との連動）

交通MP策定に向けて検討が必要と考えられる取り組み案（公共交通）

- 公共交通利用促進による既存バスへの転換、及び交通渋滞対策
- 通勤需要に対応した新たな公共交通の検討（渋滞対策への寄与にも期待）
- 既存交通結節点の機能強化
- 需要に即した現状バス路線の再編・効率化
- バス路線廃止・減便に伴う通勤通学需要への対応
- 空白地域に対応した新たな公共交通の導入検討（デマンド交通・自動運転）
- 公共交通の利用促進・意識醸成
- 高齢者に対する移動支援のあり方検討

※令和4年度パーソントリップ調査データに基づく解析の深度化
※将来交通量推計などを通じた取り組み案の効果検証